

平成 28 年度第 2 回総合教育会議 会議録

1. 開催日時 平成 28 年 11 月 2 日（水） 14:00～15:50
2. 開催場所 岸和田市役所新館 4 階 第 1 委員会室
3. 公開・非公開 公開
4. 出席者（構成員）信貴市長、谷口委員長、野口委員長職務代理者、中野委員、河野委員、樋口教育長
（司会）企画調整部：黒石部長
（事務局）企画課：藤浪課長、蓮井都市政策担当長、芝野担当員
（関係者）教育総務部：小山部長、総務課：大西課長、高井調整参事
学校教育部：須賀部長、学校教育課：松村課長
生涯学習部：濱上部長、生涯学習課：西尾課長
5. 傍聴人数 0 名
6. 会議資料
 - ・平成 28 年度第 2 回総合教育会議 次第
 - ・資料 1 平成 29 年度 市立幼稚園の 3 歳児申込み状況について
 - ・資料 2 平成 28 年度 岸和田市における全国学力・学習状況調査の結果について

7. 内 容

<司会>

定刻になりましたので、只今から平成 28 年度第 2 回岸和田市総合教育会議を始めさせていただきます。本日の会議の進行を務めさせていただきます、企画調整部の黒石でございます。よろしくお願いいたします。はじめに、信貴市長から開会の挨拶をお願いいたします。

<信貴市長>

皆様、こんにちは。谷口委員長をはじめ、教育委員会の皆様方におかれましては、平素から本市の教育行政にご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日、今年度 2 回目の開催となりました。昨年度策定した教育大綱の実現に向け、意見を交換しながら問題を共有し、課題解決に向けて取り組みたいと思います。

また、本日は、昨年非常に大きな問題となったイレブンスリー暴走の日でございます。これを根絶すべく、大阪府警から機動隊大隊を動員していただき、広域で対策を講じることとなっております。教育関係者としましても長い一日になろうかと思いますが、ご協力をお願い致します。

先ほども申し上げましたが、本日は、昨年度策定した教育大綱の実現に向けた重点施策等の進捗状況について意見交換をさせていただき、今後の教育行政、教育環境の整備に活かしていきたいと思いますので、忌憚のないご意見と活発なご議論をお願いしまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

<司 会>

ありがとうございました。

続きまして、本日の会議の会議録に署名をいただく委員の方の選任を行います。岸和田市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、市長と、市長が指名した出席者1名の方に会議録をご確認の上、ご署名いただきます。委員名簿に沿って順番にお願いすることとなっておりますので、本日の会議録の署名者は、中野委員にお願いします。中野委員よろしくお願いします。また、会議録につきましては、委員の皆様にご送付させていただき、訂正等があれば事務局へご連絡いただき会議録の修正等をさせていただきますので、皆様よろしくお願いたします。

それでは、会議事項に入ります。まず、事務局から資料の確認をお願いします。

<事務局>

事務局の企画課藤浪と申します。よろしくお願いします。まず、A4縦サイズの「資料1：平成29年度市立幼稚園の3歳児申込み状況について」、冊子の「資料2：平成28年度岸和田市における全国学力・学習状況調査の結果について」を資料として提示させていただいております。

<司 会>

それでは、次第に沿いまして、会議事項の「2.平成28年度教育施策の進捗状況について」に移ります。第1回総合教育会議において説明がありました教育重点施策のうち、主な取組の進捗状況について、樋口教育長からご説明をお願いいたします。

<樋口教育長>

はじめに、私から、前回の総合教育会議以降の教育重点施策の進捗について、主なものを7点ご説明申し上げます。

1つ目は、「市立幼稚園の3歳児申込み状況について」です。資料1「平成29年度市立幼稚園の3歳児申込み状況について」をご覧ください。来年度は、今年度実施の6園に、朝陽、大芝、八木南幼稚園の3園を加え、9園で225名の園児を受け入れる予定です。その申込み状況について資料1をご覧ください。定員25名×9園で225名を超える申込みがありました。▲の3園については、4名ずつ定員に満たず、余裕があります。子ども・子育て支援事業計画3年目の検証もありますが、今後の実施については、今回の結果を分析して検討する必要があると考えています。

2つ目は、「施設一体型の天神山幼小一貫校について」です。9月1日から実施し、市のホームページでも記念セレモニーを紹介しています。併設の良さを活かした幼小連携から幼小一貫へとスムーズに教育が進められています。休み時間での幼児・児童の交流が見られ、先生方も幼稚園と小学校を「ひとつの学校の子ども」として見守り、育てている意識を持っているところです。また、22名の園児の給食も実施しています。

3つ目は、「学校給食について」です。食物アレルギーの対応については、中学校給食も含めて検証するため、11月30日に第4回の対応委員会を予定しています。その中学校給食ですが、9月2日から開始し、現在は落ち着いて実施しています。給食センターでの衛生管理

の徹底、各学校での教育指導を行いながら、食育を推進します。

4つ目は、「空調設備の整備について」です。手法について調査中ですが、結果報告は11月末の予定です。今後、空調を含め、トイレ、非構造部材の整備に関して国から交付金の内示をいただいています。

5つ目は、本市教育の重点課題である「学力について」です。資料2「平成28年度岸和田市における全国学力・学習状況調査の結果について」をご覧ください。全国学力・学習状況調査の結果に基づき、ご説明させていただきます。

この調査は、平成19年度から実施し10年を経過しましたが、本市の結果は厳しい状況です。今年度も、全国より小中を平均して各教科7ポイント低い結果です。各教科の結果ですが、3ページ以降の正答数分布のグラフでおわかりのように、全国に比べて、低位層が多く、高位層が少なく、また無解答率も高い傾向があります。次に、11ページ(3)生活習慣や学習環境に関する調査の結果をご覧ください。本市の児童は自己肯定感が低く、基本的な生活習慣や家庭の学習習慣が十分確立されていないのが状況です。そのことから、12、13ページには今後の改善策を記載しています。

今年度も学力向上アドバイザーの派遣、学校図書館コーディネーターの配置、教育フォーラムの開催、ICTの整備による授業力向上や家庭への啓発など重点施策を遂行しているところです。学校の教育力を高め、子どもたちが生き生きと学ぶ教育環境について、次年度に向けてこの会議で意見交換をしていただければと思います。

6つ目は、「青少年の健全育成について」です。前回は申し上げたとおり、青少年問題協議会で、中学生の校外での状況について、情報共有と具体的な支援を議論しています。今年度は、3つの柱を設け、青少年健全育成のキャッチフレーズ、所属団体の図示化、中学生の声を聞くアンケートの作成を検討し、各団体の青少年活動に活かしていただければと考えております。

7つ目は、「図書館について」です。市民が利用しやすく、同じ水準のサービスを提供し、学校や地域と安定的に連携できるよう、平成29年度からの自動車文庫と平成30年度からの分館窓口業務などの民間委託業者を選定しているところです。今後、スムーズに移行し、一層魅力ある図書館づくりを目指したく思います。

<司 会>

ありがとうございました。それでは、早速ですが、意見交換に入りたいと思います。只今の本市の「教育施策の進捗状況」を受けて、ご意見をお願いします。はじめに、市長からお願いします。

<信貴市長>

先ほど、教育長から7点の報告がございました。2学期から始まりました天神山小学校の幼小一貫教育について、地域の方々のご理解を得ており、今のところスムーズに実施できていると感じております。また、園児には小学校と同じ給食を食べていただいておりますが、概ね好評であると聞いております。

野口委員が前回の総合教育会議でご発言されました、小学校と幼稚園が併設しているという本市の強みについて、本市なりのいわゆる0学年の問題についての解決策のひとつとして広げていければと思います。

また、市立幼稚園の3歳児の申込み状況について、小学校は災害時の避難所であったり、地元での会合を持ったりなど、馴染みのある施設であります。その横にある幼稚園は通いやすいとの理由で、この数字になったと思います。また定員に満たないところは、今後の課題として共有していかなければならないと思っております。原因究明については、現場の先生方や見識のある委員の方のご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

また、学校の空調設備について、我々が小学校に通っていた頃と比べると、教室の中が格段に暑くなっています。また、トイレの洋式化や改修について3校あると聞いております。そういった中、国の2次補正予算におきまして、前倒しの予算の内示をいただき、非構造部材についても概ね問題ないとの回答をいただいております。また、空調の導入時期についてはこれからの議論となりますが、当初の予定より少しは早くなると思っております。近隣市町、とりわけ学校の少ないところは、すぐに完全実施できておりますが、本市は学校数が多いため、一斉に実施できる手法を検討しているところです。国の教育施設の改善に関する予算は、耐震化のときと同じ感触を得ております。これまで、全国市長会はじめ近畿市長会や大阪府市長会におきまして、乳幼児医療の無料化、学校の空調設備、給食の3つの問題については国費で持ってもらうよう繰り返し主張してきました。各地域がこれらの問題で都市間競争をすべきでないということを理解していただけたのだと思っております。これは、教育環境の整備を預かる首長として、当然のことだと思っております。

学力の問題については、後ほど委員の皆様のご意見をお聞きしたいと思っております。

本市は、地域の行事に参加している比率は高い結果となっております。とりわけ小学校より中学校の方が高い結果となっております。中学校が高い結果となっているのは、地域コミュニティが確立していることが要因であると思っております。大阪府全体では学力が向上している中、この結果が学力と連動してほしいと思っております。

<司 会>

只今の樋口教育長からの報告、及び市長の意見を受けて、他に、ご意見などございましたら、お願いしたいと思います。学力向上については後ほど意見交換をしたいと思っておりますので、それ以外でございましたら挙手でご発言をお願いいたします。

<谷口委員長>

資料1の3歳児の申込み状況について、教育長からお話がありましたとおり、3園を増やし、9園になり、今年度の待機児童75人が来年度25人と減りました。さらに段階的に増やしていくのかということについては今後の検討課題であると思っております。ただ、待機児童を0にするということもありますが、少子高齢化の中、本市で生まれた子どもたちが皆、市立の幼稚園や保育所に来てくれるのか、また、他市や私立の幼稚園に流れていることも整理できると良いと思っております。受け皿をつくと同時に、アピールし、ニーズを掘り起こす必要があると思っております。

教育環境については中学校給食を実施していただきましたし、空調など教育環境整備についても進めていただいております、非常に有り難く思っております。学校現場としては分かる授業をするということで、教育フォーラム等を開催しながら授業の工夫をしております。ただ、ベテランの先生が大量退職をする時期にきており、中堅の先生が少なく、若い先生が非常に多い状況です。熱意はあるがスキルは発展途上ですので、その点については後ほど私見を述

べたいと思います。

教育重点施策について、「知・徳・体の育成」を掲げているところですが、自尊心が非常に少ない傾向があります。幼小連携を天神山でスタートしましたが、年下の子どもを世話することで自身のアイデンティティを育むことが非常に効果的であると思いますが、こういったことは時間がかかることなので、長い目で見ていく必要があります。

経済情勢との問題もあり、経済的に厳しい家庭も多いので、その点も鑑みながら、学校としてサポートできること、ご家庭でしていただくことを選別して考えていかなければならないと思います。

<野口委員長職務代理者>

まず、幼稚園の3歳児の申込み状況については、昨年と同様に、抽選になってしまいました。抽選が多くなるということは保護者の方には大変申し訳ないことではありますが、もう少し希望者が増えないかと昨年から思っていました。今年は、さらに定員が割れた園があることについては考えていかなければならないと思います。そういう意味では、基本的には3歳児保育が今年始まったばかりですので、カリキュラムをいかに充実させて、それを幼稚園の現場も自信を持って市民にどうアピールしていくかが重要です。

それに加えて、サービスの充実も必要だと思います。また、幼稚園のネックはお弁当です。私も一地域の人間として過ごしておりますので、たくさんの方からご意見をいただく中、お弁当を作るのが大変だと聞いています。今年、保育所から小学校の近くにある幼稚園に3歳で入られた方が近所にいます。幼稚園の内容はとても良く、安心して預けられ、子どもと一緒に歩いて通園ができて嬉しいのですが、お弁当を作るのが大変とのこと。3歳の子が食べられるお弁当を作るのは保護者にとってはハードルが高いようで、そのことを訴える方に複数お会いしました。そういう意味では、天神山小学校で取り組んでいます小学校での給食を園児と一緒に食べることは良いきっかけになると思います。しかし、3歳児の給食となると、小学生と必要な栄養が違いますので、非常に難しいようです。

保育所で給食を作るのとは別の問題が出てきますので、難しいとは思いますが、住民サービスや子育て支援ということで考えると、今後、何とかクリアしていく方法を考える必要があります。小学校の調理のハード面については問題ないと思いますが、中身については積極的に考えていきたいと思っています。

学力のことと係わりますが、生活環境の状況調査の結果を見ますと、色々な手立てが必要ですが、ひとつ感じたのは、岸和田の子どもたちの視野を広げてあげたいと思いました。

祭礼や地域コミュニティもあり、非常に子どもたちが地域と密着して過ごしていることは岸和田の強みであると思います。そこから少し子どもたちの目を外に向ける手立てを、私たちは考えなければいけないと思います。市長がおっしゃられている「世界に一番近い城下町」ということで、子どもたちが世界に目を向けるということと言えますと、教育委員会でも提案していますが、小学生・中学生の国際交流の機会が必要であると思います。中学生は中国との国際交流の機会を持っていましたが、国際情勢のこともあり、途切れております。中学生の代表を海外へ派遣し、その情報を各学校でしっかりと生徒に伝えてもらうと、子どもたちが外に目を向ける機会になりますので、先ほどの学力の結果も踏まえて考えていければと思います。

<中野委員>

まず、本市において今年度始まった幼稚園での3歳児教育について、幼稚園でしっかり馴染んでいます。これは先生方の努力のおかげだと思います。子どもたちの充実した就学前教育のために、公立・私立幼稚園が互いに特色を活かして総合的な関係を保つことが大切だと考えています。そこで公私立幼稚園間での色々な調整が行われているとは思いますが、今回、公立幼稚園の3歳児募集の結果から、私立幼稚園への申込み日と定員超過の公立幼稚園の抽選日との調整がうまくいっているのかと思いました。つまり、公立幼稚園の抽選に漏れた3歳児がその後希望の私立幼稚園に入学できていればいいですが、この点が公立幼稚園の応募に影響したのではないのかと気になっています。

2点目は幼保小連携についてです。幼保の一元化が進められていますが、これに関連しまして、学びをつなぐ幼保小の連携がさらに発展することが求められています。昨年の総合教育会議で議論をした結果を受けて、本市では全国に先駆けて天神山小学校、幼稚園で一貫教育が始まっています。まだ始まったばかりですが、この成果を広く発信してもらいたい。そして従前の縦割りの壁を超えて、幼稚園、保育所、認定こども園の就学前教育が小学校において活かさせるようにしてもらいたいと思います。

次に、空調設備について、先ほど市長から予算の内示が速まっているとのことで喜ばしいことだと思います。この空調設備の設置に向けての議論を進めていくわけですが、既に大阪市では、空調設備の設置を終えて、夏休みを一週間短くするという議論まで出てきております。したがって、空調設備の設置に併せて、授業日数の確保や学習効果などを併せて考えていく必要があると思います。

次に、学力問題、特に生活習慣や学習環境、青少年健全育成と関連してですが、子どもたちの規範意識を育てるということにつきまして、本市でもその調査結果から、学校の決まりを守るといった規範意識が課題となっています。

道徳教育が平成30年度から教科化されます。学習指導要領の改訂のポイントも道徳教育の充実で、発達段階に応じた指導内容を重点化して、小学校では「人間としてしてはならないことはしない、決まりを守ること」、中学校では「社会の形成への参画」などを挙げていますが、これらに加えて、来年度から指導法や評価について教育委員会事務局の指導の下に、学校現場でも事前にしっかりと取り組み、平成30年度の実施に向けて特に教員の指導体制の確立と指導力の向上に取り組んでいただきたいと思います。

<河野委員>

野口委員長職務代理者もおっしゃいましたが、3歳児保育についてです。私の子どもも地元の幼稚園に通園していましたが、お弁当の問題について、小さいお弁当でも作る手間は変わらないですし、むしろ難しい部分が多いです。その他では、歩いて行くことのできる距離であり、アットホームで先生もやさしく迎えていただいき、良いと思います。

私立幼稚園に学年のうち半数行くところがあります。その理由を聞くとお弁当でした。預けられる時間は私立幼稚園の方がむしろ短いですが、お弁当が問題だったようで、本市の幼稚園での実施について、どうにかならないかと思っていました。天神山幼小一貫教育が始まりましたが、給食については期待をしています。これから幼小の係わりもうまくいくことを期待しておりますし、これからの状況についても周知等、積極的にしていただきたいと思います。

空調設備については、子どもたちにとっては待望のことであり、また、早めに整備していただけるということなので大変嬉しく思います。

図書館が平成 29 年度から一部民間委託を実施することについてですが、個人的によく自動車文庫と山手の方の図書館を利用していますが、やはり中身を考えるとものすごく足りないと思います。岸和田市立図書館まで行くのは遠いので、内容の充実を図るために民間委託を考えているということなので、私個人としても嬉しく思っており期待をしています。

<司 会>

ありがとうございます。各委員さんからご意見をいただきました。市長、教育長については只今のご意見について、コメントがありましたら後ほどお願いします。

続いて、会議事項「3. 平成 29 年度教育施策の方向性について」に移らせていただきたいと思います。本日は、協議事項が2点ございます。1つ目は、「組織再編について」、2つ目は、先ほど市長から申し出がありました「全国学力・学習状況調査の結果」について、意見交換を行いたいと思います。それでは、「組織再編について」を信貴市長からお願いいたします。

<信貴市長>

現在、本市は「大阪一、子どもを産み、育てやすいまち」をつくりあげていくために、先ほど、樋口教育長からの報告にもありましたが、効果的な施策を積極的に推進しているところです。そのひとつとして、来年度から、子ども・子育て支援事業計画に基づく施策の充実を図るため、児童福祉部を幼稚園に関する窓口業務にも対応する部として、再編設置するよう調整しているところです。教育委員の皆様におかれましては、様々なご意見等あるかと思えます。

本日は、皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思えます。

<司 会>

それでは、挙手でご発言をお願いいたします。

<谷口委員長>

市長からお話しいただきました組織再編について、具体的な組織の役割分担は良く分かりませんが、お聞きした感じや教育委員会で説明を受けた感じでは、すばらしいことだと思います。すべての保育所関係、幼稚園関係が別々に存在しているわけですが、相談する市民にとって、自分たちの子どものことで、担当課が異なると非常に分かりにくいです。それぞれの分野に関しては専門家であると思いますが、隣の課に関することはそこで聞いて下さいということでは、たらい回しにされている印象を受け取られかねないと思います。そういったことを総合的に改善していただくことはすばらしいと思います。

<司 会>

岸和田市の場合は施設の老朽化のこともあり、階段を利用し教育委員会へ行かなければならない状況であることを踏まえて、できるだけ一元的に子どもに関する相談を受けられる組織に再編をしていくことを考えています。他にご意見はございますか。

(意見無し)

<司 会>

次に、先ほど、教育長からご報告がありました「全国学力・学習状況調査の結果」について、皆様方から、今後、どのような対応が必要なのか。また、本市の子どもたちが、どのようにしたら「確かな学力」を身につけることができるかについて、意見交換を行いたいと思います。それでは、挙手でご発言をお願いいたします。

<谷口委員長>

まず、教育大綱を策定し、それに基づき教育重点施策を本年度初めてスタートしたところです。来年度、大きくすぐに変えることは教育の性質上無いと考えていますので、基本的には平成 28 年度の施策を守りながら、実際運営する中で不都合が出てきたり、改良の余地があったりするところは微調整しながら進めていければ良いと考えています。

学力向上について、私見ですが、家庭の役割をもっと前面に押し出しても良いのではないかと思います。例えば、生活習慣の調査結果を見てみますと、毎日 2 時間以上ゲームをしている子どもたちは半分くらいとなっています。毎日ゲームをする子どもを放置している家庭に関しては「子どもの学力を保障できません」というぐらいのことを、暴言と言われるかも知れませんが、そういうことを打ち出して、自分の子どもをもっと愛して、係わるようにお願いしてはどうかと思います。

行政にしていだいでいる教育環境について、給食、空調設備など教育環境の整備は頑張っていると思っています。希望としては、1 クラスの人数をもう少し減らして子どもと係わる状態をとれるような人数構成を検討してもらいたいと思います。特に小学校の低学年については、保育の要素が多分にありますので、もっと深く係わるような環境づくりをお願いしたいと思います。

運動会や体育祭に参加させていただいていますが、その時の子どもたちの表情のすばらしさ、生き生きしている状況は授業中に見せていた表情とかなり違うと思います。生き生きとした本来持っている明るさを閉じ込めない教育が必要だと思っています。

より高いものを目指す人についてはそれを提供するということにはなりますが、個人差がありますので、理解が不十分な子どもを切り捨てることなく、基本的なことをきちんと覚えるまで繰り返し学習することが大切だと思っています。ここまで教えないといけないから全部教えようとするあまりに、すべてについて消化不良を起こしている児童・生徒がかなりいると思いますので、そういったことをきちんと仕分けしてやっていくことが必要であると考えています。そのために学校現場の先生方は努力されていると思いますが、校長先生のマネジメント力をさらに付けていく必要があると思います。

<野口委員長職務代理者>

様々な取組を教育委員会としてもしてきたわけですが、学力テストの平均点の上昇という形で、目に見えてこないことについては深刻に受け止める必要があると思います。けれども、以前から谷口委員長もお話しされたことがあると思いますが、本市の教科指導もきちんと学習指導要領を踏まえて実施されており、指導方法が特に他府県に比べてとてつもなく

劣っていることはないと確信しています。もちろん、大幅な教員の世代交代を迎えて指導技術の継承については、私も現場を去る時に「これだけは危機感を持ってやっていって下さい」ということを伝えてきましたし、指導技術の継承については早急に取り組まなければならないと思います。しかし、少なくとも平均点を上げることを目的化して、学力テスト等の問題に対する回答の仕方を反芻（はんすう）するような教育に偏っては絶対にいけないと思います。

理想といわれる道のりへは険しいかもしれませんが、点数を上げる喜びではなく学ぶことの喜びを育てるところに私たちは軸足を置くことが、教育大綱でも目指している確実な生きる力の向上を目指していくことになると思います。それを踏まえて、今、学校教育部が中心となって進めている授業改善への取組について、教育委員会でも強くリーダーシップをとって進めていきたいと思っています。

様々な学校現場に係わる機会がありまして、それを見る中で、若手教員がものすごい勢いで増えています。少なくとも「このポイントだけは押さえておけば、どの子にもよく分かる板書やノートになる」といった、指導のポイントの確実な継承を学校現場でしていくことが子どもたちの学びを保障することとなるのだと思います。そうすれば、1時間の学びをしつかりと実感できるようになります。一言で言うと授業のユニバーサルデザイン化に尽きると思います。

また、先ほど谷口委員長からお話がありました学力テストの結果以上に深刻なのは、生活習慣や学習環境に関する調査の結果だと思っています。

子どもたちは、宿題や予習復習をせずにテレビゲームやスマホ、インターネットをしている実態がこれで明らかになってきています。もちろん、時間を適切に使って必要最小限しかやっていない子もいると思います。しかし、これは本市の傾向として深刻に受け止めなければならないと思いますし、先ほど谷口委員長から家庭に対して前面に出してはどうかのお話がありました。私も、保護者の方に一大キャンペーンを行い、事の重大さをしっかりと訴える必要があると思います。その上で、ひとつのインパクトとして、市を挙げて毎月何日はノーゲームデーやノーテレビデーとして定め、その日は地域も家庭もそれを使わない努力をする。そして、学校も子どもたちが必ず家でできる、持ってくれば達成感を味わえるような課題を与えて、それを翌日子どもたちから集め、その成果をきちんと伝えるという方法で、保護者や地域や家庭にしっかりと訴えていく必要があると思います。

この問題はホームページなどのウェブ上で皆さんにご報告だけでは、おそらく変わらないと思います。一番見ていただきたい保護者には見ていただけないと思いますし、少し大きなキャンペーンを行うくらいの勢いで、家庭での子どもたちの学習の在り方を変えていくことが今必要であると思います。

<中野委員>

学習テストの結果の点数はあくまで目安ですので、点数を追いかけるものではないと思います。学習内容は生きる力の一部で、しっかり児童生徒に身に付くような指導が必要です。そのために学校、家庭や地域社会の総力を挙げて取り組まなければならないと思います。特に家庭や地域社会には、これまで以上に協力を求めなければならないと思います。その一方で、まず校長先生はじめ、先生方が将来を担う子どもたちに少子高齢化社会を生き抜いていくために必要な生きる力をしっかりと育て、定着を図ることに改めて目の色を変えて取り組

んでいただきたいと思います。

これまでの調査結果では、全国平均を上回ることもありましたがおおよそ低迷している状況が続いています。そのことにつきまして、子どものアクティブラーニングが次期学習指導要領で取り組まれますが、これを導くには「教育は人なり」というように、まず教員のアクティブティーチングが絶対に必要です。それについては、事務局の方で授業改善についての取組を考えてもらっていますが、適切だと思えます。今回の学力テストでも全国的に自治体が授業や指導方法を工夫し、学力改善に繋げて結果が良くなったというケースが目立ちました。この授業改善によって基礎基本の定着をきっちり図って、子どもたちの自信の回復に努めてもらいたいと思います。この学習状況調査では、本市においては、子どもたちの自尊感情が低い傾向がありますので、子どもたちが自信を失い、「どうせできない」という気持ちがあっては困りますので、子どもたちの自信の回復を図ることが必要であると思えます。

教員構成については若手の教員が増えてきているということで、当然指導力の向上に努めなければならないと思います。若手教員を育てるとともに、ミドルリーダーが少ない状況になっていますので、しっかりと育てていくことも必要だと思えます。

学校の授業が子どもたちにとって、「分かる」そして「楽しい」ということになったら、自ら家庭学習の改善に繋がっていきます。とにかく学校の授業改善が重大な取組です。昨年2月に福井市立の小学校を視察した時に感じたことですが、先生の授業方法は本市とそれほど変わっていませんでした。本市との違いを感じたのは、先生も児童も「日本一・二」という誇りを持っていることが、すごい力になっていると感じました。また、秋田県や福井県のように常時上位にある県は学年が変わっても毎年結果が変わりません。ということは、学校、市、県単位での指導法が確立されているように思えます。この点も大いに参考にすべきだと思えます。

本市におきまして、昨年に続いて教育フォーラムを本年も実施してもらいました。既に学校で活かしていると校長先生から直接聞いています。このように、教育フォーラムや各種研究発表会、そして教師間連携を通じて、教材や指導法の研究成果をオール岸和田として共有を進めていただきたいと思えます。

もう少し細かいことを言いますと、この関連のひとつとしまして、先生方の負担を少なくして、能率よく学習効果を高めるために、本市教育センターを中心に大阪府教育庁とも連携をしてICT教育を推進するとともに、このICT教材バンクの充実と活用を図るべきだと思えます。授業の一部にパソコンやスマートフォンをスクリーンやモニターに直結して児童生徒の興味関心を高め、理解を深める創意工夫をしてもらいたいと思えます。

気になる点としましては、無解答率が高いということです。特に問題Bに関して、活用ですけれども、全国との差が4科目でさらに大きくなっています。特に問題Bの活用に関しての指導法の確立ですけれども、従来の指導法では問題Bの活用には十分対応できていないと思えます。この問題Bの考え方は単にテストの点数を上げるというのではなく、物事を深く考えるために是非必要な考え方です。この定着のために、既に高校においては先生方が予備校に学ぶということをしています。同じように塾の教科指導法は進んでいますので、先生方がここに学ぶのもひとつの方法だと思えます。塾との連携についての検討も必要であると思っています。

<河野委員>

小・中学生の子どもの親としても耳が痛い話でして、生活習慣や学習環境に関する調査の結果を見ますと、宿題は皆やっているが、予習復習をする時間を削ってゲームやスマホをしているのかと見てとれる数字となっています。親として、家での子どもに対する係わり方をもう少ししっかりしなければいけないと思いました。野口委員長職務代理者が言われたとおり、結果をインターネット上に掲載するだけでは、保護者は見ません。特にこの結果に対しても、テストを受けた学年の親は、結果と全体傾向を綴られたプリントを見ますが、ただ見るだけになってしまっています。その結果に対して考えていけるような、これからの方向性を示していただけると、もう少し子どもと係わっていけると思います。やはり、子どもに向かって「勉強しなさい」というだけではしませんし、予習復習のやり方を示していただきたいと思いました。

先ほど言われた無解答率が高いことについても、すごく気になっています。これは分からないから無解答だと思いますが、正答率自体はあまり低くなっていないものの、無解答率が突出しているので、テストに対するやる気の無さが結果に出たのかなと思ったりもしました。もう少し、家庭学習に対して考えていけるような指導を何か考えていきたいと思いました。

<司 会>

ありがとうございました。各委員のご意見を受けて、樋口教育長お願いします。

<樋口教育長>

この学力調査そのものについては、1年生から5年生までの学習問題を6年生の初めに、あるいは、中学校の3年生は2年生までの学習状況について結果が出ているところですが、6年生の保護者だけが、うちの子ども、あるいはうちの学年の学校がという提供だけでなく、学校全体でどういう課題があるのかということを示しながら、各学校の状況も家庭の状況の違いも考慮しながら、改善する施策を学校として考えてもらいたいと思います。

また、無解答率が高いことについて、本市は先ほど申し上げましたとおり、低位層が多くて高位層が少ないというグラフの状況から、問題Bを見たたん「これはもうなかなか解ける問題じゃない」と考えてしまい、次の問題に進んでしまい無解答になったのだと思います。中野委員から言っていただきましたように、分かる楽しい授業を構築し、その無解答率の改善を図っていかねばならないと思います。

私自身は、やはり低位層の底上げが重要であると考えています。授業改善はもちろん教育委員会としても大事な施策であると考えますが、「授業が分かる」「勉強が分かる嬉しい」「できたら楽しい」そういう授業づくりをするためには、クラスの中で丁寧な支援を子どもたちに行っていくことが必要だと思います。谷口委員長から言っていただきましたように、できるだけ少人数クラスが良いということで、1・2年生は国・府の方針で35人以下学級を実施しています。また、教室の中にいる子どもたち全てに分かる授業を実感として持たせるために、発達障害等の障害のある子どもたちへの支援には特別教育支援員を増やして、授業を分かりやすく良いものになるように取り組んでいます。その他には、学生ボランティアに入ってもらっている学校もありますけれども、それもなかなか叶わないところもあります。少し分かりづらい子どもたちに丁寧な支援で対応できれば、低位層が底上げされ、実感とし

て学ぶ喜びを味わうことができるのではないかと思います。これは学校も努力していただかなければいけませんし、教育委員会としてどういう施策をやるのかを考えていくべきだと思います。

ハード面ではICTの充実整備関係、あるいは空調設備やトイレに関することを積極的にやっていただいているところがございますので、そういったところを取り組みつつ、また、教育委員会としてフォローしていくことを考えていかなければいけないと思います。

家庭での学習習慣や生活習慣については、なかなか難しいところもございますけれども、どのようにして啓発していくべきか、家庭学習の手引き、あるいは自学ノートを学校教育部で提示して、各学校で取り組んでいただいておりますが、徹底までいかない部分もございますので、そのところもしっかりと教育委員会として徹底して図っていくべきだと考えています。

テレビゲームをする時間より家の方々とのコミュニケーションを図る、色々なところで人と係わる、あるいは、昔やった体験を膨らますというところが、もっと求められている部分ではないかと思います。全て改善することは難しいと思いますが、野口委員長職務代理者がおっしゃった方法もあると思います。いずれにしても厳しい状況ですので、今後、教育委員会の委員や教育員会事務局とともに学校支援を図っていきたいと思います。先生や子どもたちが元気になる施策を一緒になってできたらと思います。

<中野委員>

先生方の指導力の向上について、研修時間を増やすために、学校支援チームの編成や学校への派遣について考えました。明日の文化の日の表彰で多くの成人とともに多数の児童生徒も輝かしく表彰を受けていただくとと思います。一方、本市の生徒指導状況としまして、残念ながら学校における暴力行為や不登校が増えています。昨年の総合教育会議においても述べましたが、大きな課題を抱えている学校への市独自の支援チームを必要に応じて学校に派遣してはどうかと考えています。例えば校長OB、警察官OB、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの4人からなるチームを編成して、不登校や問題行動に関して、先生方を助け、負担を低減する取組が必要だと思っています。

現在、大阪府のサポートチームの派遣がありますが、どうも学校への継続的な支援にはなっていないようなので、市独自のサポートチームを編成して、必要とする学校への派遣の検討をお願いしたいと思っています。主に先生方をサポートするという意味での観点からです。

<谷口委員長>

子どもたちの数は減っていつているのに、問題はどんどん膨らんできている状況が現実問題としてあります。虐待等様々な問題が増えてきていますし、価値観もどんどん変わってきて、言いたいことを言う状況となっていますので、もはや学校の問題は教員だけでは対応できない状況となってきていると思います。

2025年の団塊の世代の方が後期高齢者に入る問題に関しまして、この団塊の世代の方々には企業戦士として世界中に行っておられた方で、まだ、気力や体力が充実している方がいっぱいおられると思います。スポーツジムに行くと来られている方はその世代の方々が多く、ある意味、気力と体力が余っている方々だと思います。地域の力を利用するというのであれば、この方々に子どもたちのクラブ活動や英語教育などの協力を呼び掛けたいと思います。

先だって、PTA大会でのご挨拶の中で、子どもは地域の宝と申し上げましたところ、来

られていた講師の方に「子どもが宝なら宝なりの扱いをしているか」と言われました。下校時に見守っているのかということ指摘され、確かに言葉だけで行動が伴っていないと思いました。教員を増やすのはお金が発生するため難しいので、地域の方々が参加できる環境や組織づくり等の地域の力を活かす施策を検討していただけたらと思います。

<中野委員>

力を結集してというところで、先週、近畿市町村教育委員会の研修会がありました。ここで大学の教育力を地域に活かせるという取組で、大学と地域の連携ということがテーマでありました。大阪府の調査結果でも多くの市で多数の大学との連携を結んでいます。本市では今のところ和歌山大学と大阪体育大学の2大学ですが、その既に提携している大学とはさらに一層教育現場に反映するような取組が必要だと思いますし、まだ提携をしていない大学との関係で、前回スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの関係で大学との連携が必要だと申し上げましたが、できるだけ多くの大学と連携して力を借りることが必要だと思います。

<信貴市長>

学力向上ということにつきまして活発なご議論、ご意見を聴かせていただきました。「子どもたちに確かな学力を」という冊子がホームページ等で市民の皆様の目に触れることとなります。また、数字が独り歩きする可能性はありますが、他市や他府県、全国など本市の立ち位置を気になさらない人はいないはずでございます。また、一方で学力向上に対して市民の期待、そして、皆様方の期待がございます。学力向上するためにどうすれば良いか議論することに異論を唱える方はいらっしゃらないと思います。

今聞かせていただきましたように、教育環境面でのこと、生活習慣や学習環境に関する調査の結果を見ますと、野口委員がおっしゃいましたように家庭での学習時間の無さが如実に表れていることを厳粛に受け止める必要があります、また、もう少し掘り下げると、ゲームやインターネットなどICTを活用という割には、別の面にICTが使われていることが分かりました。ユニークなアイデアをいただきましたので、それも参考にしながら全市的に取り組んでいかなければならないと思います。

一方で地域での行事なども本市の強みでありますので、谷口委員長がおっしゃいましたように地域の宝であればこそ、「地域の子どもは地域で育てる」という、使い古された言葉ですが、言葉だけでなく、見守りだけではなく、地域、家庭、学校というところに原点回帰していかなければならないと思います。分かる楽しさや気づきの楽しさなど、子どもが光り輝くのはそこにあると思いますので、この点に全力を挙げて、地域、家庭、教育者、経験豊かな先生OBなど色々な方のご意見をいただきながら、進めてまいりたいと思います。人的なこともご提示いただきましたが、教育環境の整備につきまして1・2年生のみならず近隣他市の状況を鑑みながら検討してまいりたいと思います。

昨今、若い先生が多いということでのご批判を地域からいただくわけですが、本市だけでなく大阪府の共有課題として、先生方へのスムーズな指導法の継承に取り組まなければなりません。今後も、教育経験者の方に興味を持って積極的に見ていただきたいと思いますので、先生方への変わらぬご支援をよろしくお願いします。

<中野委員>

平成 29 年度の教育施策の方向性についてということで、先ほど市長から人的な配置も考えてということに関連しますが、この機会に是非お願いしたいと思います。特に A L T の増員についてです。グローバル化が一層進展しています。こういう中で、外国語英語教育の役割が非常に大きいものがあります。特に小学校の早い段階からネイティブの綺麗な発音を聞くことは極めて重要です。次期学習指導要領では 5・6 年生の英語教科化「読む・話す」を重点的に、小学校 3・4 年生は「聞く・話す」を中心に外国語活動が前倒しとなります。このことに向けて学習指導要領実施年、あるいは前年度だけでの対応では間に合いません。早くから手を打つ必要があります。昨年、今年度予算に向けて中学校での A L T を増員して小学校への派遣を増やすことを計画しましたが、残念ながら叶いませんでした。今年、訪日観光客が既に 2000 万人を突破しましたし、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを機会に、さらに増えると考えられています。外国人との交流が増えるとともに相互の国の文化を理解し大切にする機会が増えてきますので、是非子どもたちの将来のために外国語によるコミュニケーション能力の向上を図らなければなりません。そこで来年度の A L T 増員計画に関しまして、是非予算措置をお願いしたいと思います。また、できれば継続的に毎年 1・2 名の増員をお願いしたいと思います。

<司 会>

活発なご議論ありがとうございました。そろそろお時間が迫ってまいりましたので、「4. その他」に移らせていただきます。次回の総合教育会議について、事務局からお願いします。

<事務局>

前回の総合教育会議で、今年度は 2 回ということでご承認いただいておりますので、突発的な事案が無い限り、今年度はこれで最後の総合教育会議になります。次回の総合教育会議は、5 月に平成 29 年度の教育施策の方向性や主な取組等を議題に予定させていただきたいと思っております。日程につきましては、少し期間が空きますので、事務局から改めて調整させていただきたいと思っております。

<司 会>

本日の会議事項は、全て終了いたしました。最後に、市長から閉会の挨拶をお願いします。

<信貴市長>

長時間に渡りまして活発な議論をいただきありがとうございます。これにて、第 2 回の総合教育会議を閉会いたします。今後も教育環境の整備、政治的中立性、市長部局との連携強化を図りながら進めてまいりたいと思っておりますので、皆様方の変わらぬご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

市 長

署名委員